

瓦が紡ぐ農村風景

多くの農村で豊かな生態系、瓦屋根の風景が失われている。瓦を住民と共にもう一度命を宿らせ、かつての農村風景を創出する。瓦の循環の中に人々、様々な生物、生態系が入り込む。そして自然の循環の一部となる。

どこか懐かしい農村風景を瓦で紡ぐ。



計画1_田んぼと用水路を繋ぐ瓦の土手

コンクリートで覆われた用水路に対して、生き物の住処、川への足掛かりとなるくみ上げられた瓦。



瓦を足場に子供たちは川に入り、様々な生物を目にする。日常に水路が入ることで事故を防ぐ。

計画2_分断された生態系を繋ぐ命の道路

アスファルトで分断された人のための道に瓦を敷き、人と生物のための命の道に。



瓦の隙間に植栽が茂り、田んぼを分断していた道の生態系が繋がる。経年変化により地域の歴史を引き継ぐ。



瓦により浄化された水が流れ、生態系循環が広がり、まちをつなぐ。

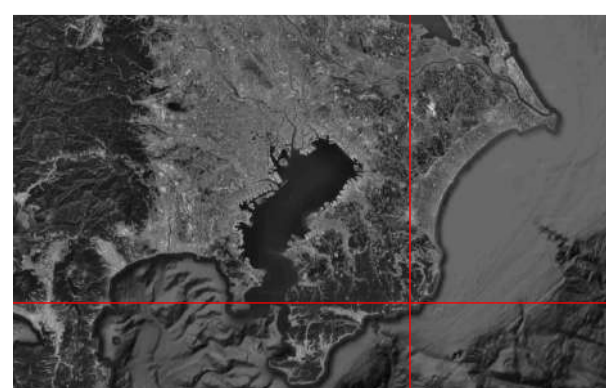


瓦屋根を地域で解体する新たな恒例行事風景となる。

01. 敷地背景

敷地は千葉県勝浦市。漁業農業ともに盛んで自然と共に発展してきた。山から水は流れ、海へと続く、このまちは山と海が関係しあいながら存在している。しかし跡継ぎ不足や都市の発展などにより田んぼの荒廃、生態系の崩壊が進み、農村の環境は崩れつつある。

さらに農家の住宅が取り壊しや建て替えなどにより、かつての瓦屋根のある農村風景は失われつつある。



千葉県勝浦市



荒れた農地

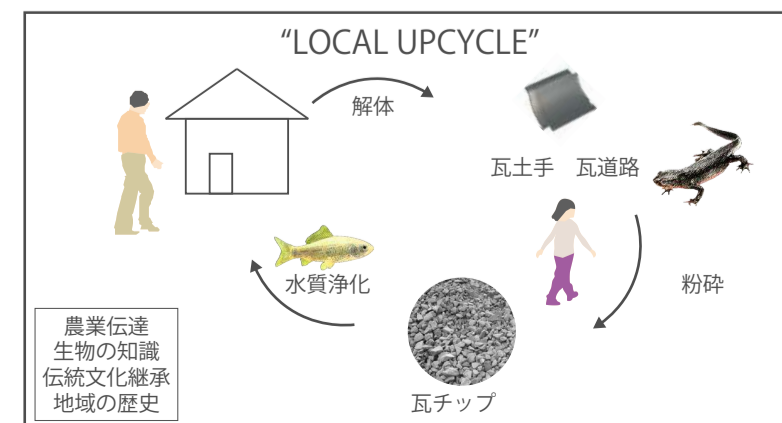


断絶された自然

02. 瓦が生み出す農村風景

川の土手、農地をつなぐ用水路、田んぼを分断している舗装道路に住宅に使用されていた瓦を再利用し、今まで殺風景となっていた風景をどこか懐かしい、しかし新しい農村風景へと蘇らせる。

-LOCAL UPCYCLE- 農家の住宅の解体と同時に、地域住民が瓦を循環させることで地域の交流の機会とする。瓦の設置と共に農業の伝達や生物との共生など多くの人々がこの循環の中に入る。住人、地域の歴史を新たな風景として引き継ぐ。

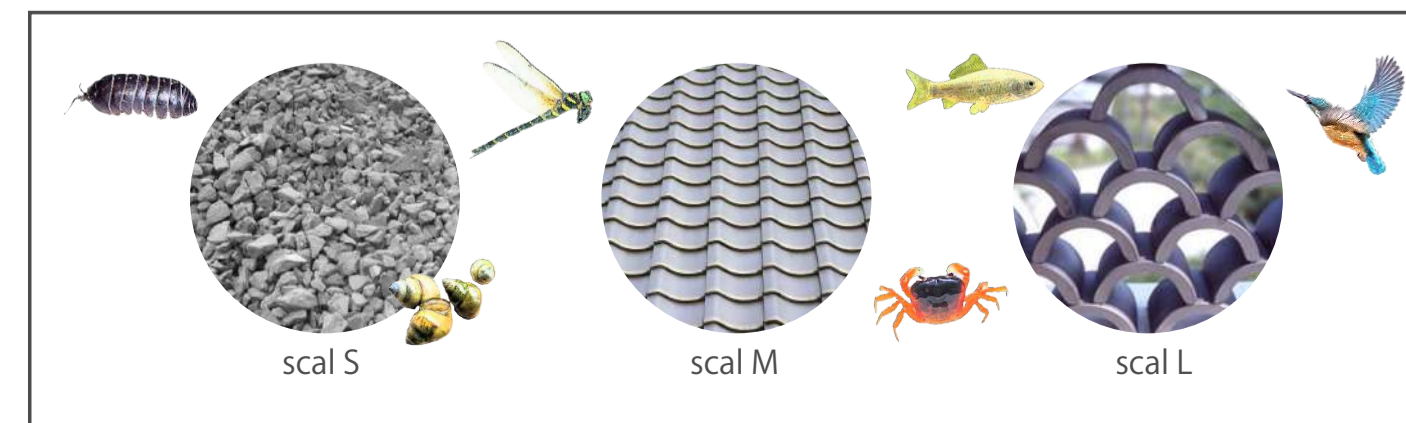


瓦素材の再生利用＝地域のコミュニティ形成

03. 人のための瓦→人と生き物のための瓦

地域の住居から集めた瓦で用水路、道路を舗装する。瓦の種類や積み方、素材の大きさによる不規則な瓦は生物が住みつく隙間を作り、水を流し、自然の歯車が回りだす。自然が豊かになり作物が収穫され、農業の活性化が期待できる。

季節によって変化する生き物、収穫される作物と同時にこの瓦のある新たな風景がこのまちの当たり前となり暮らしを支える。



瓦によって生まれるスケールの住処



瓦の隙間が様々な生物の住処となり、瓦チップが水質浄化する。